

学位論文要旨

氏名 金子 亨



論文題目

「Influence of cholangitis after preoperative endoscopic biliary drainage on postoperative pancreatic fistula in patients with middle and lower malignant biliary strictures.」

(中下部悪性胆道狭窄例における術前内視鏡的胆道ドレナージ後胆管炎が術後膵液漏に与える影響)

指導教授承認印

小泉 和之郎



「Influence of cholangitis after preoperative endoscopic biliary drainage on postoperative pancreatic fistula in patients with middle and lower malignant biliary strictures.」

(中下部悪性胆道狭窄例における術前内視鏡的胆道ドレナージ後胆管炎が術後膵液漏に与える影響)

金子 亨

要旨

背景・目的:

胆膵癌は一般的に予後不良であり, 外科的手術が根治を望める唯一の治療法である. 高度黄疸例では肝機能の低下や易感染性, 出血傾向がみられ, 耐術能の問題があり, 本邦では Endoscopic biliary drainage(EBD)を中心とした術前胆道ドレナージを行うことが一般的であり, 有益であると報告されている. 術前ドレナージ後の Preoperative Cholangitis(PC)が, 術後の合併症、とくに膵液漏を増加させることが報告されている. そこで我々は中下部悪性胆道狭窄例での術前 EBD 後胆管炎が術後膵液漏に与える影響を後ろ向きに検討を行うこととした.

方法:

2004年1月から2013年12月までの10年間に北里大学東病院で施行された, 肝切除術を行わない中下部悪性狭窄を伴う悪性腫瘍の手術例の内, EBDを施行した102例を対象とした. 術後膵液漏に与える影響として患者背景, 悪性腫瘍の種類, 狭窄長, Total bilirubin 値, 手術待機期間, 胆管炎の有無を後ろ向きに検討した.

結果:

今回検討とした102例の内, 術後膵液漏を33例(32%)に認めた. また術前ドレナージ後胆管炎(PC)を56例に認めた. PCの危険因子について検討を行ったところ, Total bilirubin 値2.9以上の群(HR:2.95, 95% CI:1.223-7.130, P=0.016), 手術待機期間が29日以上の群(HR:4.23, 95% CI:1.681-10.637, P=0.02)が独立した危険因子であった. PC群ではPCを起こしていない群に比べ有意に膵液漏が多い結果であった(78.8% vs 21.2% P=0.001). また胆道癌では膵癌に比べ有意に膵液漏が多い結果であった(72.7% vs 27.2% P=0.005). 多変量解析ではPC群(HR:4.8, 95% CI:1.785-12.992, P=0.001)及び胆道癌(HR:3.5, 95% CI:1.335-8.942, P=0.006)で有意に術後膵液漏の独立した危険因子であった.

結論:

PCは術後膵液漏の独立した危険因子であった. PCを防ぐことで術後膵液漏を減らす可能性がある.